

ホワイエ *Foyer* イエ

New Union of Architects & Engineers

Tokyo 626

2024. 6



2024年6月1日（毎月1日発行）定価200円 通巻626号第54巻第6号 発行/新建築家技術者集団東京支部幹事会
発行人 / 杉山昇 〒162-0811 東京都新宿区水道町2-8長島ビル2F tel.03-3260-9810 fax.9811 郵便振替東京3-19465
URL <http://www.ne.jp/asahi/shinken/tokyo/tokyo/tokyo> E-mail shinken-tokyo@group.email.ne.jp

- 03 三陸鉄道ぶらり一人旅 (2) 柳澤泰博
 06 地球温暖化について考える 第44回 渡辺政利
 07 NPO 法人設計協同フォーラム 30周年企画案内
 08 のこぎり屋根に魅せられて 吉田敬子
 10 アジアンニュース No.17 T N

今月の表紙 提供：柳澤

川越にぶらり散歩してきました。
 蔵造通りの一本裏に「川越基督教会」がありました。レンガ造りの瀟洒なたたずまいで、1921年（大正10年）に建てられた文化庁登録有形文化財です。



Event Information

◎は新建主催行事 ◆は会員及び交流団体の行事

東京支部

- ◎06/08 土 17:00 三浦史郎さんを偲ぶ会 @主婦会館プラザエフ すずらん
 ◎06/11 火 18:30 常任幹事会 @新建事務所

全国

- ◎06/04 火-05 水 能登半島復興支援本部 第2次視察
 ◎06/29 土 18:15 建築家竹原義二講演会 新建大阪支部主催 大阪市中央公会堂 会場のみ
 ◎08/30 金-31 土 建まちセミナー @那須まちづくり広場（栃木）
 ◎09/14 土 全国幹事会 @ZOOM
 ◎11 月ごろ 研究集会 @奈良

会員及び交流団体 詳細は（ ）に記載された会員へお問い合わせください。

- ◆06/06 木 18:30 第343回一木会「住宅建築と人のカラダ（骨格構造）の共通点とその魅力！」
 江嶋裕二氏+諏訪恵里子氏 @としまち研+ZOOM（杉山）
 ◆06/11 火 19:00 原発長期災害復興再生のあり方 公開研究委員会（山下）
 講師：乾 康代氏 @ZOOM
 ◆06/15 土 13:30 「能登半島地震の被災実態と復旧・復興の課題」@建設プラザ東京+ZOOM（坂庭）
 ◆06/16 日 14:00 「再開発は誰のため？ 矛盾を深める大型都市開発」@赤羽文化センター 500円
 講師：岩見良太郎氏 主催：北区特定整備路線連絡協議会（山下）
 ◆06/27 木 19:00 春夏秋冬のある暮らし「入江が育んだ職住近接の集落」@市ヶ谷 BN プラザ+ZOOM（金田）
 ◆07/27 土 10:00 設計協同フォーラム「快適マンションライフ展」@板橋区立グリーンホール（千代崎）

- ◆06/30 日 19:00 能登半島地震支援 チャリティー公演（丸谷・山下）
 ※経費を除く全額を能登半島地震支援として新建災害復興支援会議に寄せてくださいます。
 + [カ・ミ]神楽 夏越の祓チャリティー公演「祓い風 祈り風」@氷川の杜文化館（さいたま市大宮区）
 【料金】5,000円（要予約）【主催】香風舎 <https://www.kofusha.jp/posts/53945372/>



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も随時募集しています。

下記アドレスまで原稿をお寄せください！ foyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp

三陸鉄道ぶらり一人旅 (2)

柳澤泰博

二日目は気仙沼から。まずは朝の気仙沼を垣間見る。昨夜徘徊した街はこんなだったのかあ。しずかな街だなあ。さて、今日はJR大船渡線BTR(バス路線)で三陸鉄道の始点、大船渡の盛駅まで向かい、そこからいよいよ三陸鉄道で宮古を目指します。



ホテルから見た気仙沼駅 灯台モニ
ュメントに「ようこそ気仙沼へ！」



駅構内はホームを利用した？
バスターミナルになっている



気仙沼駅構内は線路の上を盛り上げて、プラットフォームがそのままバス停になっている。

BTRにはそこそこ人が乗車していて、途中のバス停での乗り降りもあり、地元の足という感じ。しかし車中からの景色は、整備された土地と堤防などが見えるだけで、当然人が住んでおらず人家が見えないので殺伐とした感じ。

いくつかの漁港にさしかかると漁船が見えた。車窓からなのでわからないが午前中でもすでに人が見えず活気がある感じには見えなかった。自動車専用道路(ハイウエー)を走り陸前高田市に入ると奇跡の一本松が遠くに見えた。もともと人家が少ないのだろうが、町が成立していないので整地されたただっぴろい場所に病院や津波伝承館、防災観光交流センターなどが突然現れるといった感じ。これで観光産業を含めた災害復興支援事業が成り立つのかなあ。



遠くに奇跡の一本松が見える
手前に見えるのは電柱



大船渡防災観光交流センター
「みなとオアシスおおふなと」



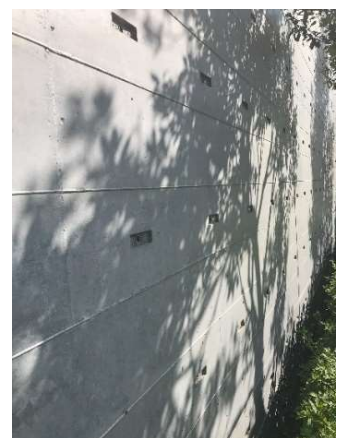
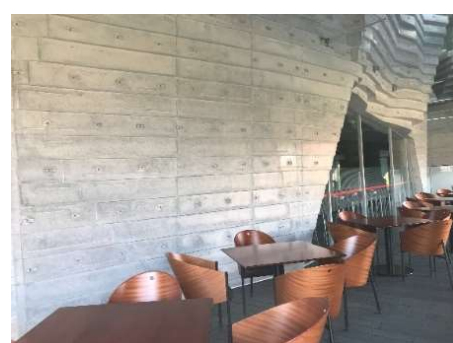
気仙沼から大船渡盛駅までの BTR では 1 時間ちょっと、10 時過ぎに到着した。ここでは次の盛駅からの三陸鉄道の乗り継ぎまで 2 時間半ほどあるので、以前から気になっていた大船渡市民文化会館「リアスホール」を見に行くことにする。この施設は大ホールを備えた大船渡市民文化会館と市立図書館が併設され、茶室やスタジオ、会議室なども備えた複合施設で、設計者は新居千秋氏。2009 年の日本建築大賞を受賞している。2011 年の東日本大震災の時にも避難所として機能したという。盛駅からは徒歩で 20 分ほどで、途中コンビニで補水と道を聞きながら、(と言っても一本道に近い) 向かった。そしてそれは広い幹線道路の十字路の一角の整備された緑地の中に建っていた。

なかなかの存在感がありごつごつとした造形的にも魅力的なボリューム感で建っていた。

その名の通り「リアス式海岸の」岩肌と絶壁をイメージさせる荒々しさが表現されている。

コンクリート打ち放しというと必然的にパネル割とセパレーターの P コンの丸い痕が 450 * 600 ピッチに並ぶのが通常だが、そのセパレーターを短冊状にして芯穴をそのまま残すという旨い表現に変えている。コンクリートのざらついた素地とパネル割 (455 * 1800)、出目地、セパレーター一痕だけで全体を徹底的に構成しとてもうまく表現している。

しかし！ここでも施設が「休館日」で内部には入ることができなかった。残念！そこで今回は外回りをうろつくことにした。



出目地とパネル割を 450 * 1800 で割りつけている。
セパレーターを短冊状にして規則正しく徹底的に割り付けている
それが岩肌の表情を与えている。

さていよいよ盛駅から三陸鉄道の旅である。

盛駅は JR と三陸鉄道の駅舎が並んで立っている。JR の方がちょっと立派。というより三陸鉄道の盛駅舎はコンビニのような感じに見えた。盛からはバスできた団体客も加わり列車は満席となってしまった。盛駅 13:00 出発。やはり鉄道旅はいい！小石浜駅（今は愛の磯辺 恋し浜駅だそうです）などをのんびりと通過していく。



小一時間ほどで釜石駅到着。ここで列車を乗り継ぐ。

さすがに釜石は新日鉄釜石の鉄鋼の町で駅の前に大きな製鉄工場がそびえている。またラグビー全国7連覇をした「新日鉄釜石」の町でもある。駅ナカに大きなラグビーボールと「走り続ける・・・三陸魂 復活するぞ・・・釜石魂」ののぼりがたっていた。釜石からは運よくレトロ調列車だ！この列車に乗れるのは幸運！釜石では乗り継ぎだけで、昨日の教訓から早めに宮古着く 14:12 分発の列車に乗った。



釜石駅前に日本製鉄釜石工場

三陸鉄道はリアス式海岸に沿って走っているイメージがあるが、意外にも山間部を貫いて走っておりトンネルが多い。湾部では海が垣間見えるが、海に突き出ている半島部ではトンネルを貫いている。駅の多くは無人駅で、そんな中「^{うのすまい}鵜住居」という駅があった。駅前には新しい住宅が建ち並んでいた。

今回の宿泊地宮古に 15:30 到着。宮古は昨日の気仙沼よりは街らしいたずまい。今夜の食事の店を品定めしながらぶらぶらとホテルまで 10 分程度街を散策して早めにチェックイン。そのかいあって駅前の日本料理屋で「刺身で一杯」ができた。(続く)



うのすまい
鵜住居駅 周りに新しい住宅が
建っていた



夕暮れ迫る宮古駅前

産業革命前から 1.45℃上昇

「世界気象機関（WMO）は3月19日年次報告書を公表し、昨年（2023年）の世界の平均気温が産業革命前よりも1.45度上昇し、174年の観測史上で最も高くなったと明らかにしました。海水温もデータのある65年の中で最高（しんぶん赤旗・3月21日）であることを示しました。この記事では、2023年の「南極海水のピーク時（最少時のことと思われる・渡辺）の面積は、それまでの最少記録と比べ100万平方キロも大幅減少。これはほぼエジプト1国の面積に相当」と指摘。「WMOのセレステ・サウロ事務局長は、『WMOは、世界に非常事態を訴えている。2023年の空前の海洋温暖化、氷河の後退、南極での海水の現象はとりわけ懸念される』と表明。水は気よりも熱を蓄えやすく、海洋の温暖化は『ほとんど逆転不可能』であり、回復に数千年かかる可能性がある」と述べました。」

これに先立つ1月9日、欧州連合（EU）の気象情報機関「コペルニクス気候変動サービス」が「2023年の世界平均気温が14.98度と、記録が残る1850年以降で最高だったと発表した。産業革命前と同程度とされる1850～1900年の平均より1.48度高く、気温上昇を1.5度に抑えるとする温暖化対策の国際枠組み『パリ協定』の目標値に迫った。」（1月10日・東京新聞夕刊）と伝えています。つづけて「コペルニクス気候変動サービスは、23年の平均気温の上昇は4～12月の海面水温が記録的に高かったためだと説明。大気中の温室効果ガス濃度が観測史上最高レベルに達したことや、南米ペルー沖の海面水温が上がる『エルニーニョ現象』が、7月以降強まり続けたことが海面水温の上昇を招いたと指摘した。」「23年はアジアや北米、欧州、アフリカが熱波に見舞われ、カナダやギリシアで山火事が相次いだ。平均気温は、これまで最も高かった16年を0.17度上回った。」

単年度の計測結果による地球気温上昇は、パリ協定が目標とする、産業革命以前に比べ気温上昇が1.5℃以内に抑えるとする国際目標は目前に迫っていることは確実ですが、最近の日本でも、4月、5月から気温25℃以上の夏日を観測することが極めて多くなっており、今年は1.5℃目標を大幅に超えるのではないかと心配になります。一方で、この目標は、数十年間にわたる観測結果を問題にしているの、単年度観測結果だけでパリ協定の目標達成が不可能になったとまでは言えないとする考え方もあるようです。

抜け道探す日本政府

イタリアのトリノで開催されていた先進7カ国（G7）気候・エネルギー・環境総会議で、4月30日、二酸化炭素（CO₂）削減対策がなされていない石炭火力発電を2035年までに段階的に廃止することで合意し、共同声明を採択したことが報道されています。（2024年5月1日東京新聞）内容は以下のようになっています。

G7の共同声明で石炭火力の廃止年限が明示されたのは初めてのことだが、廃止時期の明記に難色を示した国にも石炭火力継続への道を残した形になっている。再生可能エネルギーの比率が小さく、東京電力福島第一原発事故の影響で、多くの原発が停止し火力発電が7割を占める日本への配慮がなされた。しかし、国のエネルギー基本計画で石炭火力が3割を占め、30年度でも2割を占める日本は近く計画の改定作業を本格化させるが、声明が議論の方向性に影響する可能性が大きい。国内の石炭火力発電の多くは排出削減対策が講じられておらず、政府は燃焼時にCO₂が出ないアンモニアなどを石炭に混ぜて

燃焼させる方法で将来も石炭火力を使い続ける方針。

共同声明は、30年に世界の蓄電容量を22年比で6倍以上にし、核融合エネルギーの研究強化のためG7に作業部会を設けることも掲げている。次期削減目標にはCO₂だけではなくメタンや代替フロンなど温室効果ガス削減目標を入れるよう各国に要請。

これに続けて解説記事では「G7各国では議長国イタリアのほか英国、フランス、ドイツ、カナダが30年までの石炭火力廃止、米国は利用削減を支持する立場で日本だけが利用に固守し、孤立している」と書いています。

また同じ記事で、「排出削減対策が講じられていない」という条件が、日本政府への抜け道となっていることを書いています。「燃焼時にCO₂を出さないアンモニアを石炭に混ぜること」で排出削減対策を行っている、石炭を段階的にアンモニアに置き換えることで、CO₂排出削減が見込めると日本政府は主張しています。「排出削減対策が進められている」のです。しかし、「アンモニア製造は多くのCO₂が出る手法が主流のため排出削減は限定的という批判が強く、国際的に理解が広がっているとは言いがたい」ともこの記事は記しています。発電業界の当面する利益のために、地球温暖化防止という現在及び将来の全人類への責任を無視又は過小評価する日本政府の無責任ぶりには、世界からおおきな批判が巻き起こることは目に見えています。

「エネルギー基本計画」改定議論開始

世界の温暖化対策強化の動きに包囲された日本政府は、35年度以降の電源構成を焦点としたエネルギー政策指針「エネルギー基本計画」の見直しに向けた議論を5月16日から始めました。この会議開始の一般への告知が5月15日すなわち開催の前日になったことから、この会議の内容に温暖化対策の前進を期待する国民から不審の聲が上がりました。

5月16日の東京新聞は、この会議（総合資源エネルギー調査会・基本政策分科会）の主な論点を5点示しています。それらは以下の通りです。

- 2040年度を見据えた電源構成目標の検討
- 温室効果ガス排出量の実質ゼロ目標や、人工知能（AI）時代の電力需要拡大への対応
- 岸田政権が掲げる原発の「最大限活用」に向けた具体化
- 太陽光や風力など再生可能エネルギーの導入拡大
- 国際的に廃止の流れが強まっている石炭火力発電の比率引き下げ

この会議の委員構成は、原発推進を主張する財界や学者が多数を占め、会議の最初の発言で「原発推進財界大合唱」が起きたとしんぶん赤旗が報じています。地球温暖化を口実に上記第3番目の「原発の『最大限活用』に向けた具体化」が議論される事になっていますが、結論は見えていこうというべきかも知れません。温暖化対策は自然エネルギー利用強化をうたいながら、本音として原子力発電利用強化方針が打ち出されるのかも知れません。さらに、この冒頭発言で日本製鉄会長の橋本英二委員は「再エネ拡大のハードルが高い」ので「原子力の拡大と火力発電の増設を進めるべきである」と、ここに至って驚くべき発言を行ったことが報じられています。地球温暖化への危機意識すら持たないこの程度の連中が委員を占めていることに我々が危機感を感じざるを得ません。

財界の当面する利益追求にひたすら迎合・追従する岸田政権に期待することは無駄と半分あきらめの気持ちの一方で、少しでも温暖化防止の方向に動きを強めてくれることを期待したいと思います。（つづく）



快適

買うとき・住むとき・住み続けるとき

マンションライフ展

7月27日(土) 10時30分(開場10時)~17時(無料)

板橋区立グリーンホール2階 板橋区栄町36-1

東武東上線「大山」駅 北口から徒歩約5分 / 都営三田線「板橋区役所前」駅 A3出口から徒歩約5分

買うとき・住むとき

マンションは都市にすっかり定着し、東京では一番多い居住スタイルです。建物を長く使うことは環境への負荷を減らし、集まって住むことは効率的です。快適に住むためのヒントをご紹介します。



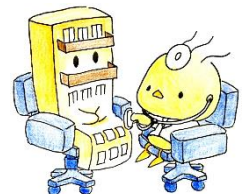
- 10:30~11:00 「快適マンションライフ プロローグ」 千代崎一夫 (マンション管理士)
①マンションとは? ②チラシから読み解く ③リフォームの注意点
- 11:05~11:35 「ここまでできる専有部のリフォーム」
事例「間取りの変更と省エネ対策」 大力好英 (一級建築士)
リビングを広く、収納不足の改善、断熱樹脂内窓・断熱塗料 (壁・天井)
- 11:40~12:10 事例「スーパーワンルームへの改修」柳澤泰博 (一級建築士)
45㎡程度の2DKをワンルームにして広々暮らす
- 12:10~12:30 展示ブース紹介

住み続けるとき



13:00~13:20 建物ワークショップ 解説:千代崎
会場のグリーンホールが8月より大規模改修が始まります。改修前の建物を見て学びましょう。

- 13:30~14:30 「人も建物も快適に100年」 山下千佳
ドイツの世界遺産の団地、快適に住み続けるための設備改修・サッシ交換・大規模改修
そして、設計者と実現した高齢になっても安心なトイレ・風呂のリフォーム
- 14:40~15:10 地震に備えるー耐震診断から耐震補強の事例 千代崎一夫
- 15:15~15:45 管理運営・マンションデモクラシーを考える
- 15:50~16:20 展示ブース紹介



NPO 法人設計協同フォーラム

板橋区南常盤台1-38-11 住まいとまちづくりコープ内

TEL 03-5986-1630

メール sumaignood@sumaimachi.net

後援: 東京都学校生活協同組合

お申込みフォーム

<https://sumaimachi.net/240727form/>



一級建築士による個別相談会 (要予約)

マンション専有部と戸建て住宅・その他の建物

①11:00~11:50 ②12:00~12:50

③13:00~13:50 ④14:00~14:50

⑤15:00~15:50 申込みフォームに希望時間帯と簡単に内容をお書きください。予約が取れましたらメールにて返信します。

★火・木曜日の午後、事務所にて何でも相談も実施

鋸屋根に魅せられて

京都府京都市中京区① 写真家 吉田敬子

京都で鋸屋根調査をする時の悩みは、住宅地図です。〇〇区〇〇町通上ル下ル〇〇町、地図が頼りの私には苦戦です。道路は碁盤の目のごとく細かく割り振られていますが、苦戦です。いつも感心するのは、郵便局の配達員です。余談ですが、そんな私にも京都に行くと必ず立ち寄る場所があります。先斗町にある居酒屋です。隠れ家のような店ですが、色んな情報が得られ迷路の様な道は、ここで鍛えました（笑）鋸屋根に関する情報は薄かったのですが「二条駅」周辺で見たような気がする聞き訪ねてきました。二条駅といえば明治37年（1904）建設、木造2階平安神宮本殿を模した入母屋造で、現役時代は日本最古級の木造駅舎でした。現在は京都鉄道博物館の一角に移設保存されています。一度ゆっくり拝見したいです。その後高架化工事にともない、平成8年（1996）アーチ型の大屋根の新駅舎になっています。私が初めて訪ねた平成14年（2002）の二条駅前には、再開発工事の終盤でした。

二条駅西口風景：中京区壬生^{みぶ}エリアと「芋松温泉」^{いもまつ}の通り（下左右）



二条駅西口から徒歩約10分、複雑に入り組んだ狭い路地が交差する一角に、見事な唐破風の屋根をつけた入口の「芋松温泉」がありました（全下の写真）^{みぶ}壬生エリアです。「壬生」という地名は「水が生まれる＝地下水」という意味からできた地名だそうです。水に関係深い土地ならば鋸屋根はあるはずと探索開始です。四条通に出る手前で見えてきました。鋸屋根です。訪ねると織物工場で、あの有名な龍村美術織物の工場でした。突然訪ねた私に「業務上、詳しいことはお話できませんが、せっかく訪ねて来られたので、鋸屋根工場のことなら」と少し話して下さいました。マンション建築中の敷地も鋸屋根工場でした。解体前は13連あり、現在は4連4連の2棟で絨毯と染色にわけて使用している。外観だけなら撮影していいですよ。と許可を貰い失礼しました。龍村美術織物は1894(明治27)年、初代の龍村平藏が創業しました。西陣織の世界に革新を持ち込み、法隆寺や正倉院に伝わる古代裂の復元研究に励み「美術織物」という新たな芸術分野を確立させました。1958(昭和33)年には紫綬褒章を受賞しています。この歴史ある織物が時を経て、鋸屋根工場で織られていたとは、感無量でした。かつて13連あったという鋸屋根工場を想像しながら、二条駅方面に戻ると、高い塀から煉瓦造の屋根が顔を出していました。大きな敷地です。(次回へ続)

写真：龍村美術織物の鋸屋根工場

撮影：2002年その後解体され現存せず



越南・チャンパ遺跡(2)

南中部沿岸地方のダナン市やクアンナム省のチャンパ遺跡の話題が出て VIETJO ニュースで報道されており、その足跡をたどって見ることにする。

筆者は、一度だけチャンパ遺跡を訪れたことがある。レンガを積み上げた遺跡群に圧倒されました。今では、観光名所になり、歌や踊りもあるようです。

—*

特集 クアンナム省チャーキエウ遺跡と日本人考古学者の 30 年間 2024/03/17 10:03 JST 配信

チャンパ王国は、2 世紀末から 15 世紀後半ごろまでベトナム中～南部の沿岸地方に存在した初期国家だ。南中部沿岸地方のダナン市とクアンナム省の地域は同王国の初期の中心地で、聖地ミーソン・港市ホイアン・王都チャーキエウ(チャーキエウ)の 3 か所を中心として栄えたとされている。

クアンナム省にあるチャーキエウ遺跡に魅了され、自身の研究の方向性を変え、クアンナム省の地と、この地の人々とともに人生の旅路を歩んできた日本人考古学者がいる。

山形眞理子氏が、ロンドン大学の故イアン・グラバー博士率いる調査隊のメンバーとしてチャーキエウを初めて訪れたのは、1993 年の春のことだ。

ブウチャウの丘の上に位置するチャーキエウを初めて訪れた山形氏は、日本の縄文土器に関する博士論文を執筆中ではあったが、チャーキエウを今後の研究の対象にすることに決めた。



山形氏は現在、立教大学の特任教授であり、日本の東南アジア考古学会の会長(2020～2023 年度任期)を務める。

過去 30 年間にわたり、山形氏はチャーキエウの調査に多くの時間を捧げ、そしてベトナムと日本の若手研究者たちをつなぎ、指導を行ってきた。

異なる見解

山形氏たちがチャーキエウを訪れる以前にも、長きにわたり多くの研究者たちがこの地について考古学の調査と研究を行ってきた。しかしながら、チャーキエウの年代や位置付けに関しては、依然として多くの異なる見解があった。

フランス植民地時代にフランス極東学院(EFEO)のフランス人研究者たちが行った調査・研究に関しては、ルイ・フィノ(1904 年)はチャーキエウについて「古都シンハブラ(サンスクリット語)の可能性」を示唆した。

レオナルド・オールソー(1914 年)は「林邑(中国の歴史書にあらわれるチャンパの名称)の都であり、紀元後 5 世紀に中国の軍隊によって略奪された都市」だとした。一方、アンリ・マスペロ(1924 年)は、日南郡象林県(中国・漢の南端、林邑はここから独立)の所在地について懐疑的であり、林邑はチャーキエウではなく、北中部地方トウアティエン・フエ省にあったとした。

オールソーとジャン＝イヴ・クレイは、1927 年から 1928 年にかけて行ったチャーキエウの発掘調査の後、「チャーキエウこそ林邑の都であると同時に、中国・漢の支配下にあった象林県の中心地でもあった」との見解を示した。

しかし、1947 年になると、シュタインは中国の史料に基づいてオールソーとクレイの研究結果を否定し、林邑はハイバン峠(トウアティエン・フエ省とダナン市の間に位置する峠)の北にあったとした。

その後、ベトナム人による調査・研究も行われるようになった。1985 年、ハノイ市の大学の調査隊は、チャーキエウの地で紀元後およそ 2 世紀末から 4 世紀初頭のものと思われる、サーフィン文化(紀元前 500 年もしくは 300 年頃から紀元後 100 年頃にかけてベトナム中部を中心に分布した鉄器時代の文化)の末期とチャンパの初



期の土器の破片を発見したと報告した。また、サーフィン文化に関係する他の痕跡も見つかった。

ベトナム人、英国人、そして山形氏ら日本人の考古学者から成る調査隊は、1993年から1996年にかけてチャーキエウで発掘調査を行った。先行研究の結果を踏まえながら、調査隊は注目すべきさまざまな問題を提起していった。

クレイは、EFEOで最も優秀な考古学者だったことは間違いないが、フランス植民地時代にチャーキエウで行われた最初の大規模かつ複数の地点での考古学調査・研究においては、チャーキエウから多数出土する遺物としての土器や瓦にはあまり目が向けられなかった。

こうした中、山形氏も参加したこの調査隊は、出土土器の年代を見極めること、そしてサーフィン文化とチャンパの関係性を考察することを目的に据えたのだった。山形氏はまた、チャーキエウの年代と遺跡の変遷、さらにチャーキエウの地に人々が定住したのはいつからなのか、林邑とチャンパにはどのような関係があったのかということにも関心があった。

発掘調査からわかったこと

1993年、山形氏を含めた調査隊は、発掘調査で非常に重要な遺物を多数発見した。多くの遺物は中国南部やベトナム北部でみられる漢代の土器と関係していたほか、遺跡から出土した炭化物を分析したところ紀元後1～3世紀という年代が出た。

さらに注目すべきは、調査隊が1997年から2000年にかけてチャーキエウのホアンチャウ地点で行った発掘調査で、山形氏は下層から上層までの土層中に含まれる一連の遺物を特定することに成功した。これにより、考古学的な観点からみたチャーキエウの古代の歴史に光が当てられることとなった。

山形氏は、その後もほぼ毎年チャーキエウを訪れ、踏査や発掘調査を続けた。また、チャーキエウだけでなく、比較対象として他のさらに古い遺跡の調査・研究も進めた。山形氏は自身の考えについてこう語る。



「チャーキエウは林邑の都であり、サーフィン文化から初期国家(チャンパ)への変遷のプロセスは、中部地方の他の地域よりも先に、クアンナム省とダナン市の地域で生じた可能性があると考えています。チャーキエウの考古学的な年代の枠組みを構築することは、北中部地方と南中部地方に存在する林邑の関連遺跡との比較研究においては不可欠であり、これはまた、考古学的な観点と方向性から林邑の歴史を見直すことにもつながります」。

山形氏らの考古学調査・研究の成果としての重要な遺物の数々は、クアンナム省ズイスエン郡にあるサーフィン・チャンパ文化博物館に展示されている。これらの研究成果は、ベトナムと日

本をはじめ、世界各国の学術雑誌に論文が掲載されているほか、出版もされている。

土地への愛と人への愛

研究において重要な功績を残してきた山形氏は、ベトナムの多くの友人や考古学者の仲間たちからサポートを受けてきた。特に、チャーキエウが位置するクアンナム省ズイスエン郡の地元住民との縁も深い。

中でも、ベトナム人女性考古学者の故グエン・キム・ズン氏は、山形氏がチャーキエウに関わるようになってから30年間にわたり山形氏をサポートし続け、2人は共に調査・研究を行い、固い絆で結ばれていた。

山形氏いわく、これまでにたくさんの土地を訪れてきたが、その中でもズイスエンの人々、そしてクアンナムの人々の大きな愛情が心に残っているという。

ズイスエン郡文化スポーツ部のズオン・ドゥック・クイ元部長は、山形氏が初めてチャーキエウを訪れたころのことを振り返り、こう語る。

「先進国からやって来た真理子にとって、インフラも整っていない環境での仕事はさぞかし大変だったことでしょう。でも、彼女はそんな環境をも乗り越えました。真理子はベトナム語を聞くのも話すのもとても上手ですし、仕事をするときの彼女は信条があり、律儀で素朴で、誰からも本当に愛される、そんな人です」。

過去30年間に山形氏は、チャーキエウの初期の年代の枠組みを構築したほか、チャーキエウが林邑の都であったこと、サーフィン文化から初期国家への変遷のプロセス、さらには他の文化との比較研究を通じてチャーキエウの地域とベトナム中部・北部の他の地域との関係性を明らかにするなど、大きな功績を残してきた。

それだけではない。山形氏は、ベトナムと日本の若手研究者たちをつなぎ、指導を行ってきた。このように、情熱に溢れ、素朴で思慮深い山形氏は、クアンナム省の地に重要な貢献をしてきた考古学者の1人となっている。

住む人・使う人の立場で、
住まいづくり、まちづくりを
すすめています。



共同建替え「アリア鳩ヶ谷」

〒124-0001
東京都葛飾区小菅4-22-15
TEL : 03-3601-6841
FAX : 03-3601-6944
E-mail : zo-3@jade.dti.ne.jp
http://www.zo-3.info

株式会社 **象地域設計**

新建築家技術者集団 憲章

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める。

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

住み続けられる



株式会社
まちづくり研究所

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503
TEL : 03-5423-3470 FAX : 03-5423-3479

住む人に、環境に、優しく・・・
さらに美しさをお届けする

ルナファーマー

五感で味わう心地よい空間・・・

ルナファーマーは、環境保護先進国「ドイツ」で広く普及している塗装下地壁紙。通気性や透湿に優れ、結露やカビの発生を抑えます。紙のパターンと塗装色の組み合わせで、お部屋の演出は思いのまま。模様替えやメンテナンスもそのまま塗り重ねるだけでOK。(10回程度可能) 廃材もほとんど出ないので、環境に優しい材料です。



(輸入元)日本ルナファーマー(株)
東京都港区南青山2-9-3
青山JPビル 2階
TEL 03-5785-2750
(施工店)(有)ルナファーマー・テクノ
東京都港区高輪4-23-6
TEL 03-5792-5819

新協建設工業株式会社

平和であればこそ建築はよろこび

本社 台東区台東2-25-10
東東京支店 江戸川区篠崎町3-1-3
台東支店 (台東)台東区台東2-25-10
西東京支店 (多摩)日野市神明4-22-13
大阪支店 堺市寺地町東4-2-11
石川支店 金沢市法光寺町207-4
広島支店 広島市安佐南区相田6-1-7

TEL03-3836-2011 FAX03-3837-8450
TEL03-3678-7471 FAX03-3678-7472
TEL03-3836-2017 FAX03-3835-7380
TEL042-584-7508 FAX042-584-7581
TEL072-229-2873 FAX072-229-2874
TEL076-257-2535 FAX076-257-2570
TEL082-872-1727 FAX082-872-1728